

令和7年度 江戸川区立南葛西第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	『自立と貢献』 学校教育は、学校で完結しない。児童が将来、一社会人として立派に自立し、国や郷土、自分の周囲に貢献できる資質を身に付けさせる場である。そのことを目指して南葛西第二小学校の教育を推進する。		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学力保障」で信頼される学校づくり</li> <li>「文武両道」質の高い「知・徳・体」の実現</li> <li>「学力保障」の責任を果たし、結果を出す</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査質問用紙から学習意欲に対して意欲的であると回答した児童が7割以上いた。</li> <li>体力向上の一環として、30分間外遊びや、朝の時間のマラソンを通して活発に運動する児童の姿を見ることができた。</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の学力向上の目標は「東京都の平均に達する」ということであるが、都の平均付近を上回る学年もでてきている。学力向上の手立てとして放課後補習教室の継続や、南二道場（放課後の教員による補習）の際に、6年生が全学年に学習をサポートしに行く取り組みを昨年度から始め、効果が出てきている。</li> </ul>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の充実	・放課後補習教室への登録率100%	A		A	南二道場、放課後学習教室共に登録率は100%となっている。	A	南二道場や放課後学習教室を予定通りに実施し、6年生が学習サポートを行う体制が整っている。	A	南二道場や放課後学習教室を予定通りに実施できた。6年生の協力もあり充実している。SSSIによる教材準備なども整っている。	A	児童の学力定着に努めているかというアンケートに対し肯定的な回答が94%と高かった。	ほとんどの児童が主体的に取り組んでいる。更に意欲が高まるように、改善、充実を図る。
		【補充学習の実施】 ・週3回の全校一斉朝学習 ・民託による週1回放課後補習教室 ・学年による週1回放課後補習教室	・区学力調査（12月）の達成率70% ・全国学力・学習状況調査（4月）の達成率が都平均を上回る。 ・本校独自学力調査（4月）達成率70%	A		A	6年生のR7年度全国学力・学習調査では、国語、算数、理科で東京都の平均を超える結果を残した。自分の考えがもてるように、「比較する」「関連付ける」「分類する」「類推する」など、考える手段や方法を継続して指導する。	A	児童が自ら学習に積極的に取り組んでいるかというアンケートに対し肯定的な回答が94%と高く、前向きに学習に取り組んでいる様子が見られた。	A	「学力定着に努めているが」という外部評価で、肯定的意見が94%であった。職員の学力向上への意識は確実に高まり、全学調の結果も、国語は都平均より+3ポイント、算数は+6ポイント、理科は+4ポイントとなっている。	A	授業や補習教室を通して学力向上を図っている。更に興味・関心・意欲を高める授業を行っているかとう項目に対し85%の保護者が肯定的な回答をしている。一方で8%が「わからない」と回答しており、授業公開等で地域・保護者に更に周知していく。	国語、算数の基礎学力を更に高める。来年度は理科を柱として、「問題解決能力」の向上を目指す。OJTを計画敵に実施し、指導力の向上を図る。
	○読書科の更なる充実	・読書を通じた探究学習の授業年間各学年12時間以上の実施 ・朝読書は各学年年間1050分程度（毎週金曜日30分読書タイム）	・読書を楽しんでいる児童の割合を80%以上	B		B	今年度、各学年の担任が学級の状況に合わせた本を選定し積極的に購入をしている。今後の読書への意欲向上に期待している。	B	「読書が楽しくない」という回答が21%と多く、今後の読書科の内容も含め、意識的に各教科で本を活用した学習に取り組んでいく必要がある。	B	火曜と金曜の読書タイムでは集中して読書に取り組んでいる。「読書好きな子に育てているか」という外部評価では69%が肯定的意見であった。読み聞かせなど更に充実させる。	B	読書に対して20%の保護者が読書好きな児童を育てる活動に充実感を感じていないことが分かった。児童と保護者のアンケート結果から両者の認識が一致していることが分かってきた。	読書週間の前など、図書委員会から、積極的な図書館利用の呼びかけをしていく。読書クラブは、本の紹介ポスターを掲示し環境づくりに取り組む。
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実	・縄跳びウィークやマラソン大会で体力の向上 ・5月に体力テスト主要項目を体育の学習で実施 ・「なわとびウィーク（2週間）」の期間実施（授業の中で縄跳びの学習） ・毎週金曜日30分の運動遊びを実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が体を動かすことが楽しいと回答する。 ・体力テスト全項目108のうち54項目以上が都平均を超える。	A		A	まだ結果は出ていないが、なわとびウィーク、運動遊びは計画通り実施できている。日々の体力作りを心がけている。今後体力テストの分析を行っていく。	A	「身体を動かすことが楽しいと感じるか」という項目に対し、肯定的な回答が90%と高かった。体力テストに向けて体育の学習で行った運動や金曜日の30分運動遊びなどを継続的に取り組んだ結果と言える。今後も継続していく。	A	体力テストの項目を体育の学習で取り組み、成果を上げることができた。平均以上の項目数が22個から67個に増えた。なわとびウィークでは、授業の5分程度、休み時間などで体力を向上することができた。	A	なわとびウィークやマラソン大会等、体力向上に努めてたってきた。アンケートでは、肯定的な回答が81%と高く、児童のアンケート結果と比べると少し低いものの、児童自身は楽しんで学校での運動に取り組んでいるという結果となった。一方で10%の保護者が「わからない」と回答しており、休み時間に設定されている活動（なわとびウィーク等）の周知をしていく必要がある。	なわとびウィーク等の活動について保護者等に周知していく。
		○豊かな心の育成	・クラブ、委員会活動やきょうだい学年交流（なかよしタイム）などの充実 ・きょうだい学年によるなかよしタイム（年4回）	・児童へのアンケート結果で、90%以上がきょうだい学年の活動が楽しいと回答	A		A	計画通り実施できており、今後も継続して取り組んでいく。	A	異学年交流に対し肯定的な回答が90%あり、異学年との交流に楽しさを感じている児童が多い結果となった。活動を継続していく。	A	児童へのアンケートの結果、91%の児童が異学年交流（なかよしタイム）やクラブ・委員会活動での活動が楽しかったと回答した。	A	85%の保護者から異学年交流の充実に対して肯定的な回答があった。特に低学年の保護者からは高学年の児童が低学年のお世話をやっていて助かるという自由意見の回答も散見された。
いじめ・不登校対応の充実	○OL-gateの活用	・L-gateの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・毎日のL-gateによる児童の実態把握。年1回以上の校内研修会と毎週金曜日の生活指導夕会での報告	A		A	毎日継続的にL-gateで児童の実態を把握している。L-gateがきっかけでトラブルを未然に防ぐなどの効果が出ている。	A	L-gateに毎日取り組んでいる児童が95%と高い。教員が日々の児童の様子を捉え、いじめ・不登校の対応を考えて教育活動を行っている。	B	毎日継続的にL-gateで児童の実態を把握してきた。いじめについて、軽微なものも認知して対応を行ってきた。	B	77%の保護者がいじめや不登校に対して相談しやすい体制にあると回答している。自由意見では対応が早く安心したという意見も複数見られた。	L-gateの運用を引き続き行っていく。毎週の生活指導夕会で全体での確認を行っていく。
		○学校ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・各学年2回以上の更新	A		A	各学年が定期的に更新し、情報を発信できている。継続的に発信していく。	A	学校での出来事を保護者に話していない児童が22%おり、学校ホームページでの更新を続けていく必要がある。	A	保護者や地域の方に本校の教育活動について理解していただくために、児童の活躍や取り組みを幅広く伝えていく。	A	tetoruやホームページの充実に関しては92%の肯定的な回答があり、ペーパーレス化や情報が即座に送られてくることに肯定的な意見が見られた。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○地域の人材・環境を生かした教育活動	・各学年に1回以上地域を生かした活動を取り入れる。	・富士公園どんぐり拾い（1年）、魔法の文学館見学（2年）、のりすき体験（3年）、左近川調べ（4年）、田植え稲刈り体験（5年）、郵便局手紙の書き方講座（6年）	A		A	学校外の学習以外にも、特に水泳指導、家庭科のミシン指導、ラジオ体操などのゲスト講師を招いて、地域の人材を生かした活動に取り組んだ。	A	「学校外での学習活動を好きと感じるか」という項目は89%と高かった。各学年に学校外での体験的な活動を取り入れていることを継続的に言い、学習意欲に繋げていくことを年度末にまでに定着させる。	A	前年度から引き継がれている体験活動に加え、学校ボランティアの方々の支援が児童の安全管理上とても有効であった。	A	地域の特徴を生かした教育活動の充実に関しては、81%の保護者が肯定的な回答をしている。一方で12%が「わからない」と回答しており、学年単位の授業（水泳指導やミシン体験）や出前授業（ラジオ体操等）、具体的な活動を保護者に周知していく必要がある。	学校ボランティアの方々にご協力いただける場面を更に設定をし、地域との連携を深める。